8
summer 2004

CBRC Newsletter

ヘテロな環境から生まれるもの

細胞情報チーム長

高橋 勝利

　このところ、自分とは異質な環境にあえて身をおくことが多くなりました。何故か、というと、自分の持っていない「何か」を得たいと強く思い始めたからです。

　学位を取得した後、企業、大学など、色々な環境で色々な人と出会い、色々な経験をする機会を色色な皆さんから与えていただきました。その中で、電子顕微鏡画像解析手法や二次元電気泳動像自動解析などの研究を行い、実験科学者との交流が始まり、次第に、新しい「何か」を始めるためのヘテロな環境の重要性を実感するようになりました。

　CBRCに赴任してから、その思いはさらに強くなりました。ご存知の通り、CBRCはバイオインフォマティクスに特化した研究拠点です。常々、優れたバイオインフォマティクス研究を行うためには、実験科学者との密でかつ対等な連携が必須だと考えています。特に私が担当している分野の研究では、実験科学者との連携が必須ですが、なかなか対等な関係を実現するのは難しく、大体の場合、実験科学者が生産するデータをもらって、その解析を行わせてもらうのが関の山です。インフォマティクス側の要請に合わせた実験系を組んでもらえるのは、相手がよほどバイオインフォマティクスを理解している場合に限られますし、また、逆にバイオインフォマティクスに特化することで、密な連携がしにくくなる面もあります。

　そこで、バイオインフォマティクス側内部に実験科学的要素を取り込むことを考えました。自分自身の中に自分とは異なる相手の要素を取り込み、ヘテロな環境を作ることによって、自分とは異なる相手との、より密で対等な連携を促進しようと試みたわけです。

　周りの皆さんのご理解もあり、なんとか外部資金を得て、バイオインフォマティクスに特化した研究環境の中に、計測科学というヘテロな要素を取り込むことができました。ここでは、それぞれ分野も価値観も異なるヘテロな集団として研究開発を行っています。誰一人として同じ分野の人間はおらず、時として、同一話題で話をすることすら難しい環境です。しかし、産学官連携プロジェクトのもと、外部の、自分とは異なる相手と密に連携する際、これらのヘテロな人材が持つ多様性が大変うまく働いているのだと感じます。また、それぞれが互いの文化を理解し、互いを尊重し、一つの目標に向かって一致団結した時、初めて、新しい「何か」が生まれるのだとも感じています。

　自分とは異なるヘテロな存在を自分に取り込むことにより、様々な可能性が広がるのですが、自分自身が他から「ヘテロな」存在になる事も忘れてはいけません。多様性のため、自分自身のアイデンティティーが希薄化する危険性もはらんでいます。自分自身のアイデンティティーをどう保持し、ヘテロな環境から何を創造するか、それが今問われています。「実験」はまだ始まったばかりです。